

第七編 国民の二つの役目

国民の義務

1. 二つの役目 まず、国民というのは、一つの身で二つの役割がある。一つめの役割は、政府の下に立つひとりの民。すなわち、客の立場。二つめの役目は、国中の人民が申し合わせて、「国」という名の会社を作り、会社の法を決めて行うこと。すなわち主人の立場だ。一国は会社のようにあり、人民は会社の人間のようにあって、ひとりで主人と客の二つの役割をつとめるべきだ。
2. 客としての国民 客の立場から考えれば、一国の人民は国の法律を重んじてそれぞれ平等であることを忘れてはいけぬ。自分もまた他人の権利を妨害してはならない。たとえ不都合なものでも、法律を勝手に破っていいという道理はない。
3. 主人としての役目 人民が中心であり、また主人である。政府は代理人であり、支配人なのだ。政府のやっていることは個人事業ではなく、国民の代理となって国を支配している。主人は政府の処置に安心できないとき、遠慮なく穏やかに議論すべきであると感じた。
4. 税金は気持ちよく払え人民は国の中心であるから、国を守るための費用を払うのは、もちろんその義務である。世の中の様子をみると、家やファッションやグルメ、に力を尽くす。ひどいと酒や異性のため金を捨てる人もいる。税金は安い買い物であるからあれこれ考えずに気持ちよく払うべし。
5. ダメな政府に対してとるべき手段 信念を曲げて政府にしたがうのは大変よくない。一度信念を曲げて、不正の法にしたがったならば、子孫に悪い例を残し悪い習慣を広めることになる。力をもって政府に敵対する。古い政府がたとえどんなに悪い政府であったとしても自然と解決策はあったと思う。身を犠牲にして正義を守る。力をもって政府に敵対すれば、政府は必ず怒り、かえってひどい政治をするようになる。
6. 命の捨てどころこのように心をいためて身を苦しめ、あるいは命を落とす。失うのはただ一人の命であって、日本は特に、討ち死にした人も多い。文明とは、人間の知恵などを進歩させ、人々が自分自身の主人となって世の中が必ず文明へと進み、社会全体の安全と繁栄をもたらす目的がある。「天は人の上に人を作らず」で有名な学問のすすめですが、冒頭は知っていてもそれ以降を読み進めた人は意外に少ないのではないのでしょうか。元々は福沢諭吉が友人のために書いたものでした、世に広めるべきだと考えられ発刊されました。